

国保コーナー

健康保険の異動は
お早目にお願ひします

四月といえば、就職や進学などで住所異動の多い季節です。転入届けや転出届けとともに大切なのが、健康保険の届け出です。この届け出を忘れたり遅れたりすると、保険を利用することができなくなったり保険料

を重複して納めることになるなど本人の不利となるばかりでなく、医療機関に迷惑をかけることにもなります。健康保険は、自らの健康を守る大切な制度です。異動の際は早目に手続きをしてください。

届出と手続き一覧

＝届出は役場住民課窓口＝

こんなとき	手続き	いつまで
他の市町村から転入してきたとき	健康保険証を添えて村長に届出る	14日以内に
他の市町村へ転出するとき	健康手帳を添えて村長に届出る	転出する前に
村の区域内で居住地を変更したとき	健康手帳を添えて村長に届出る	14日以内に
氏名を変更したとき	健康保険証と健康手帳を添えて村長に届出る	14日以内に
会社を移動したとき	健康保険証を添えて村長に届出る	すみやかに
死亡したとき	死亡の届出義務者が、死亡した人の健康手帳を添えて村長に届出る	14日以内に
70歳になったとき	健康保険証を添えて居住地の村長に70歳に達したことを届ける	70歳の誕生日前14日以内に
65歳を過ぎて寝たきりになったとき	国民年金証書、障害年金証書または医師の診断書および健康保険証を添えて、村長に認定の申請をする	寝たきりになったとき
生活保護を受けるようになったとき(加入者資格を失う)	生活保護開始決定通知書に健康手帳を添えて村長に届出る	すみやかに

ふなわんくの思い出...

何年か前に遊んでいたあの場所

片思いだったあの娘は...

子供の頃の思い出が...

故郷への手紙

十月の末に私のところへ初めて「広報つきがた」が送付されて来ました。

故郷の香りを満載した広報紙を胸をときめかせながら読みましたら、なんと、私の生家の隣の親父さんの金婚祝いの写真と記事が載っておりま



(釣寄出身)

長沼春雄さん

現在...大阪市生野区にお住まい。
樹脂製版(株)の代表取締役。

した。懐かしさのあまり繰り返し、返し繰り返し広報紙を読み、子供のころの思い出にひたりながら、「そうだ、これが故郷なんだ.....」

学校の成績が悪い分身体が丈夫だった、片思いだったあの娘は？泥まみれになって遊んだ川や田んぼ、それに、神社の広場、つきからつきへと子供のころの思い出がよみが

平成3年度

保健委員の紹介

保健委員は、村の保健衛生事業を推進するために住民と大切なパイプ役として活躍されます。

主な活動には、総合検診や環境衛生、健康づくり事業などの地域活動が主体です。一年間よろしくお願ひします。(敬称略)

◎予防衛生委員

- 大別当 小湊 ヨイ 近藤 昌子
- 月瀬 五十嵐タケ子 山崎 マチ子
- 長沼 ハル 大関 あけみ
- 児玉 ヒサ 田中 光子
- 西萱場 北 春子 田辺 静子
- 上曲通 児玉 幸子 野沢 文江
- 下曲通 阿部 初枝
- 東長島 河井 光子
- 木滑 吉川 桂子
- 細海 信子 長沼 さよ子
- 釣寄新 山口 久美子

◎食生活改善推進委員

- 大別当 小湊 玲子 五十嵐ヤイ
- 月瀬 堀 マサ子 登石 博子
- 中村 久子 矢俣由紀子
- 西萱場 渡辺 圭子
- 上曲通 中山セツ子 川瀬 聖子
- 下曲通 矢部 美和
- 東長島 野内 洋子
- 木滑 市嶋 直子 児玉みよ子
- 釣寄 高柳 なつ子
- 釣寄新 井沢 幸子

◎公衆衛生委員

- 大別当 小湊 忠八
- 月瀬 渡辺 栄一
- 西萱場 渡辺 正松
- 曲通 山田 正
- 東長島 笠原 勝
- 木滑 吉川 又七
- 釣寄 荻原 重光
- 釣寄新 後藤 昭英

平成3年度
「緑の羽根」
募金のお願ひ

今月四月一日から三十日まで、の間に、「緑の羽根」募金が行われます。

この募金は、学校・福祉施設及び公園・公共施設などの緑化を実施しながら、地域ぐるみの緑化運動に大きな成果をあげています。

新潟県内での昨年の募金総額は約九千六百万円になりました。村でも、みなさんのご協力をお願いします。

村内目標金額
「6万円」



国土緑化キャンペーン

えり、この歳になってもいつまでもいつまでも故郷を忘れることが出来ない。私は昭和三十九年の新潟大地震で勤めていた会社が不況になり退社して、故郷を後にしました。三年ぐらいい大阪で頑張ったので帰郷しようと思いつつ、早や二十七年、私にとって「故郷は遠きにありて想うもの」になりました。

私の趣味よじ

私がチヌ(黒鯛)に魅せられたのは二十年前です。元勤めていた会社の上司の下さんと下さんの親友のMさんに、十月の連休に三重県大王町の船越に初めてチヌ釣りに連れて行ってもらったからです。一週間ほど前からチヌはそんなに簡単に釣れるわけがないと思いつつも、当日下さんの車で目的地へと、途中、鳥羽の水族館に寄り魚の研究をし、アケミ貝十二キ、ボケ六十匹とヌカとサナギ粉を買って船越の釣宿着。夕食をしながらチヌ釣りの極意を早合わせは絶対禁物、筏に上がった

ら大きな音をたてるな.....。昨夜の深酒を後悔しながら朝六時、二号筏に立ち、磯の匂いと朝もやに包まれたすばらしい景色が目前に広がりました。三号筏は私たちが三人だけ、下さんの「今日は潮もいいし、絶対釣れるぞ」と気合いの入った声に我に返り、アケミ貝を一人三キほどつぶし一気に投げ込み、二キの竿にヌカにサナギ粉を混ぜ、だんごにしてアケミ貝を片貝にして包み投入、もう一竿(二キ八十キ)を用意している間にMさんに第一号が釣れ、下さんにも釣れ、二人の先輩の歓喜を背にうけながらヌカだんごを投入し続けること二時間、その間に下さん四匹、Mさん三匹、私だけが見放されてしまい、あせりといらだちで半分諦めかけているとき、下さんが五匹目を釣り上げ、可哀想になったのか後輩思いの下さんが「ナガヤん場所を変わってやるからここで釣れ、絶対釣れるから」と優しいお言葉、場所を変わってもらいだんごを投入して二・三分おしぎをちについで二・三分おしぎをし、一気に水中に舞い込むと同時に「竿を立てろ!!大きい

ぞ」と下さんの声、立てた竿にグググッと伝わる感触、ガツチリとハリ掛りしている。魚体の抵抗が伝わるほどには興奮の極みに達し、無我夢中で引き上げる。朝の陽を受けキラキラと輝きながら海面に姿を見せてくれた初獲物は、まぎれもなくチヌ(四十七キ)。一時間ほどで三十八キと三十二キの二匹を追加、以後、三時間経っても穂先はピクリとも動かない。潮はほとんど動いていないようで、だんごは真下に落ちて行く。下さんの「もう釣れへんで、納竿にしようか」の声で一時こら納竿、釣具店で魚拓にしようと思いつくから呼んでも返事がない。店内には一回りも二回りも大きい魚拓が所狭しと貼りつけてあり、今度必ず四十七キより大きいやつを釣って魚拓にしようと思いつく。それ以来、幾年月、未だに魚拓を取るチャンスにめぐりあえず、久しぶりに会う下さん。飲むほどに酔うほどに声を張り上げ、「ナガヤん!!チヌ釣りは、エー目エーしているんやでー」